シラウオの性質から考えた新しい展示水槽

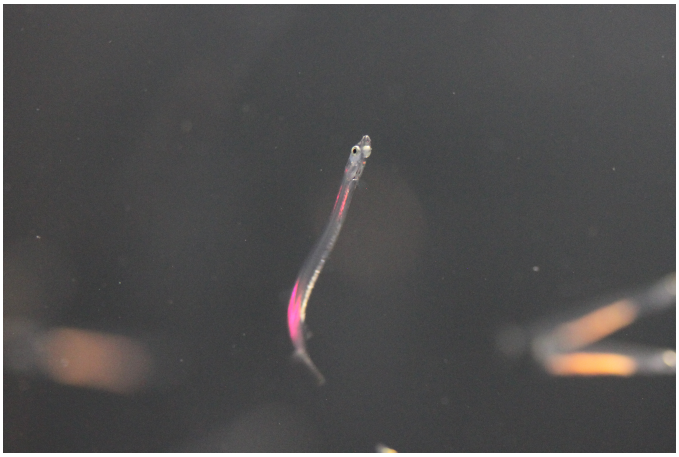
田久和　剛史（島根県立宍道湖自然館ゴビウス）

シラウオ *Salangichthys microdon* は，各地の汽水域に生息する大きさ 10 センチ程度の魚類である．体は細長く，生時は半透明である．寿命はおよそ 1 年と短い．当地では，汽水の宍道湖を象徴する魚のひとつでもある．本種の鱗はオスにわずかにあるだけであり，傷に弱いといったことなどから一般的に飼育は難しいといわれる．収集できるのも冬から春にかけての短い漁期に限定され，展示できてもすぐに寿命を迎えてしまう．これらのことから，年間を通じた展示を行うためには，飼育下での生産と安定した展示環境が重要である．

そこで，宍道湖自然館では 2001 年の開館以来，本種の周年展示を目指し，人工繁殖による展示に取り組んできた．2016 年からは，当館を管理運営するホシザキグリーン財団の事業の一つとして，量産のための技術開発事業を開始した．その結果，2017 年には全国の水族館で初めての周年展示が実現するとともに，現在では，数千の単位での生産が可能となっている．

年間を通じて本種を展示できる体制に目処が立ったことから，館内にシラウオ水槽（264×132.5×120 ㎝，約 2600L）を新設し，2019 年 1 月 1 日より公開を開始した．この水槽には，これまでに飼育下で得られた知見を反映させるとともに，本種ならではの見せ方の工夫も行っている．

繁殖させたシラウオが群泳する全国でもここだけの展示水槽について，一部映像を交えながら発表する．



光を受けてキラリと輝いて見えるシラウオ